授業研究会

〇授業者自評

熊本県立熊本農業高等学校（隈部）

まず指導案についてですが、本時の展開の中の「３　実生活に生かした体力を高める運動を選ぶ」という項目を最後にもっていきました。また、「４　体ほぐし運動のねらいに応じた実践を行う」という項目のなかで「指示役、実践役に分かれ、様々な活動の実践を行う」と計画していましたが、今回の授業内容が難しかったため、本日は教師主導で行いました。そして、次回の授業で２つのグループで交互に見せ合い、生徒同士で学んだことを教え合うという流れに変更しました。生徒の様子については大変緊張した面持ちでした。日ごろの授業ではポジティブな声かけが出るのですが、緊張感から疲労度も高く、良い授業になったと思います。今回の授業を計画するにあたり、本校においても体つくり運動についてどれくらい認識しているのか聞き取り調査をしたのですが、認知度が低いのが現状でした。体つくり運動という名称を知らない、リズムにのる運動は行ったことはあるという声が上がりました。体つくり運動への認識が低いなかで、実生活で実践し継続する資質や能力をどのようにして育むかというところに重点を置き、それが最も難しい課題でした。今回、ホワイトボードを使って落とし込みの段階から授業を進めていきました。生徒同士で教えあったり考えたり、生徒自身で計画したりすることについては今後の授業で深めていきたいと思います。また、今回記録用紙を活用して授業を行ってきました。今までは授業の冒頭や途中で書く時間を設定していたのですが、活動することと書く作業の両立がスムーズにいかないという課題が出てきたので、本日の授業は計画を変更し、書く作業は最後にするようにしました。これらを評価に取り入れ、今後の互いに教え合うところについては非常に楽しみにしている部分でもあり、授業展開を見ながら生徒の評価をしていきたいと思います。最後に、今大会の公開授業にあたり、寺本指導主事をはじめ、多くの先生方からご指導いただきました。また、本校の体育科でも授業に対する研究の機会になり、大変有意義な時間になりました。授業の工夫等でまだまだ至らない点があったと思いますので、貴重なご指導やアドバイス、ご意見等いただけたらと思います。本日はありがとうございました。

熊本市立出水中学校（岩﨑）

本日はありがとうございました。今日の授業をふり返り、まず生徒たちは、日ごろ使っている中学校の体育館と違い、高校の体育館の施設の素晴らしさに圧倒されていましたが、良い環境の中で授業を進めることができました。私自身も広い体育館に初めは戸惑いましたが、広い体育館だからこそできる授業計画を立てスペースを意識してできたと思います。体ほぐし運動では誰にでもできる運動であること、また、生徒にとにかく楽しさを実感させることをねらいとして鬼ごっこを行いました。前回の授業では少し狭いスペースで片足ケンケン鬼ごっこをしました。通常の鬼ごっことは異

なるねらいがあり、そのねらいに迫った言葉がけをし、生徒の反応に耳を傾けながら行いました。続いて、展開については「日常化」ということを常にポイントとして考えながら進めました。１年次にはボールやチューブを用いたり、あるいは自分の体重を利用したりした３パターンの運動例を、映像を用いながら提示しました。今回はさらに日常化していすを使った運動を行いました。いすはいつでもどこにでもあり、軽い運動で刺激を与えることができ、様々に活用できると思います。また、日常生活のなかで実際に行ってみるようにと声かけをして、とにかく日常化を目指して体力を高める運動を行ってきました。２年次では運動例を提示するだけではなく、生徒自身が自分の体力の状態を把握し、その体力に応じた運動計画を立てられるようになって３年生につなげたいと考えました。ゼロからのスタートではなく、私から１７の運動例を示して、その運動例を活用しながら自分の体力に応じた運動計画を立てるようにしました。また今回、仲間とのシェアをさせました。自分の運動計画を仲間にもしてもらうことで比較し、自分の計画を見直すきっかけになるとともに、アドバイスをもらうことで気付きが増え、さらに深まった運動計画になると考えました。はたしてきちんとポイントを意識した運動計画になっていたのか、もしくはアドバイスの内容や仕方はどうだったのかという点においては課題が多く、３年次でそのような点まで指導をしていきたいと思います。私自身慣れない環境での授業で緊張しましたが、子どもたちはたくさん汗をかき精一杯活動してくれたことに感謝し、この１時間の授業を無事終えることができました。私自身が気付いていなかったところや課題点が多くあると思いますので、この場で教えていただき、今後の授業につなげていきたいと思います。ありがとうございました。

〇質疑応答

Ｑ．本日はありがとうございました。生徒たちが緊張感ある中でも、笑顔いっぱいで活動しており、運動量も十分確保された充実した授業であったと思います。他の領域はスポーツが素材になっており、そのスポーツのルールを簡易化したり、生徒の実態に応じて変形させたりしながらねらいにせまっていくことができます。しかし、体つくり運動は素材がオープンである中で、どのようなねらいをもってその運動を選んだのか、また、今回実践された運動をそれぞれの学校で持ちかえり実践する上でポイントや注意点などがあれば教えていただきたいです。

【隈部】

体つくり運動のねらいについては、「心と体の気づき、体の調子をととのえる、仲間との交流」の３つをポイントにしました。体ほぐしの運動では、のびのび行うことやペアでのストレッチ、脱力した運動、仲間と動きを合わせるなどの項目をホワイトボードに書いて１～３時間目に様々な活動を行いました。活動を行う中で、どのような動きでどのようなねらいであるかをホワイトボードで示し、生徒にも考えさせました。例えば、「サッカー」であれば「ゴールを狙う」といった明確なポイントがあるのですが、体つくり運動については難しいところ

がありました。そのため、学習指導要領をフルに活用して行った次第です。今日実践した内容やポイントについては、後方にあるプリントを活用して頂ければと思います。

【岩﨑】

私は、この体つくり運動において楽しさを実感できるよう工夫をしました。また、楽しさだけではなく、できた喜びも実感してもらうことを大きなポイントとしました。難しい運動を行うと、うまくできずに運動が楽しくないという感情につながってしまうと考えたので、誰にでもできるということと用具がなくてもすぐにできるということを意識しました。それと同時に、腕立て伏せのようなワンパターンの運動ではなく、楽しさ、興味・関心がわくような運動例をたくさん紹介したいと思いました。単に生徒に運動をさせるのではなく、モデル映像を作って見せたり、視覚的に資料を提示したりしてすぐにわかるような運動例の提示の仕方を意識して行いました。

Q．私自身の勉強不足と、まだまだ努力しなければならないことを再確認できました。ありがとうございました。生徒自身が考えた運動プログラムをペアの相手に実践させて、アドバイスをし合う中で、肩甲骨の運動を５回に設定した生徒がいました。その生徒に対してペアの生徒が５回では少ないのではないかという意見を出していました。その中で、この運動はゆっくり行うから効果的だという意見と、１５回くらい行ったほうが柔軟性は高まるのではないかという意見など深い話し合いをしていました。今後、アドバイスの仕方をどのように指導していくのですか。また、今後の授業の流れとして、オリジナルの運動を考えさせる内容まで発展させるのか疑問に思いました。

【岩﨑】

一点目のアドバイスの仕方とありましたが、肩甲骨の運動に関して私自身リズムに合わせて回数を重ねて行うことが理想ではないかと考えていました。しかし、生徒から「リズムが速いですね」、「私の場合はゆっくり行ったほうが負荷がかかっていいです」というような言葉も返ってきました。そのようなことからも、生徒それぞれがしっかりねらいをもって運動ができたのであれば、それを尊重するべきなのではないかと考えます。生徒自身が運動を行いながら実感することが一番であると思いました。アドバイスの仕方については、まだしっかり言語活動ができていないので、今後取り入れていかなければならない課題です。２年次の段階では、気づきを相手に伝えることができたり、理由づけをして相手に伝えたりすることができるようにしたいと思います。二点目のオリジナルの運動という点です。１年次には一つのねらいに絞った運動計画を作成しました。例えば「柔軟性に課題があるので体の柔らかさを高める運動を〇分間」というように計画を立てさせ、２年次ではバランスの良い体力向上をねらいとして、４つのねらいをいれた運動計画を作成するようにしています。今まで行った用具を使った運動、ペアでの運動、いすを用いた運動などを活用して６分間の運動計画を立てることを冬休みの課題にしてつなげていきたいと思っています。

【司会者】
岩﨑先生は初めにきちんとした知識を生徒に指導されるので、その知識の裏付けがあってのアドバイスであると感じています。中学校・高校の目標の中に、「目的に適した運動の計画を立てて」とあり、自分の必要性やニーズに応えられるような運動を取り入れることができるという点が生涯スポーツという面においても重要だと思います。

【隈部】
本時の授業を行ったクラスの生徒は７１％という運動部活動加入率であり、体力を高める運動については部活動で行ったことがあるようなものも多かったのではと思います。私が行った体ほぐし運動の内容はゴール型スポーツの動きにポイントを置いたもので、山村が武道の動きにポイントを置いたものであり、各部活動のトレーニングにも生かすことができるというメッセージも含んでおりました。部活動生においても筋力トレーニングは行っているものの、具体的な知識やトレーニングは知らないという状況であり、体つくり運動を行う前に２時間体育理論の授業をしました。そのため、専門的な言葉が出ても生徒は十分に理解した上で行うことができ、その点では知識の裏付けとしてのアドバイスができたのではと思います。全体を通して授業で行ったことを部活動や日常生活へ深められるようにというねらいがありました。

【岩﨑】
生涯スポーツにつなげるという意味で、導入にラジオ体操第二を用いました。ラジオで流れ、テレビでも放映されるラジオ体操こそ毎日できる身近な運動だと思い、導入に入れました。本校の体育館が改修中であるため、教室で体つくり運動を行うこともありました。そのようなこともふまえて、やはり狭いスペースでもできる運動や、用具がなくてもできるもしくは身近な用具でできる運動を実践していくことが生涯スポーツにつなげていく重要なポイントになると思い、授業を計画しました。

【司会者】
全ての学校、先生方においてどのような視点で授業を進めることが生涯スポーツにつながるのかということが一番の課題であると思います。知識やノウハウであるのか、感覚的なものであるのか、意見やアドバイスなどもありましたらお願いします。

Ｑ．男女別修にした意図はなんでしょうか。

【隈部】
最初は３時間共修にしていましたが、思春期の時期を配慮したということが一点、また、男女の体力的な差が大きく、それを考慮して全員が伸び伸びと楽しく、そしてスムーズに行うためという理由です。

【岩﨑】
男女のペアでは運動計画の作成がスムーズに進まなかったためです。男女では運動強度や回数も異なり、また、男女での楽しさの提示の仕方も異なると思います。そのため、意見交換がスムーズにいかず運動計画の作成に時間がかかるのでペアは同性で組むようにしました。

【司会者】
　先生方が述べられたように、体育の実践の中では男女別修のほうが行いやすいことも多いです。しかし、裏を返せば人種、年齢、性別など関係なく楽しむことができるのも体育やスポーツの良い点であると思います。他の科目や領域と比較すると男女共修か別修かという点においてはまだまだ模索している途中であり、この先も課題であると思います。今後、男女での体育の授業実践がスムーズになるためにも、なにか意見がありましたらお願いします。このような貴重な機会であるので情報交換の場にしたいと思います。

Ｑ．授業数を減らさなければならないときに、優先的に削除されるのが、体つくり運動であることが多いです。体力を高める運動として前半は長距離走、後半は行事に向けて持久走という形で授業を行っています。時数と行事の関係で工夫されていることがありましたら教えてください。

【隈部】
　本校でも同じ状況であり、行事で削られています。また、本校も体育大会は５月に開催しています。体つくり運動を取り入れるベストな時期は１学期であると思うのですが、１学期には多くの行事が入っている現状です。この大会が開催されるため、体つくり運動を２学期にもってきました。良かった点としては体育理論を学んだ後に体つくり運動を行えたことです。知識が深まることで活動がさらに活発になりスムーズに進みました。時間設定を工夫するとスムーズに行えることが実感できたのですが、各学校でも年間計画の流れはある程度出来ていると思うので、各学校での体育職員間の検討課題であると思います。

【岩﨑】
　ここ数年間、体つくり運動を深く学んできたのですが、体つくり運動が嫌いという生徒が少ないということが見えてきました。生徒がとても喜んで取り組むのが体つくり運動です。昨年度、長期休業の宿題で運動計画を立てさせ、連休明けや学期スタートの時期に計画したものを実践させ、生徒の体がなまっているときに活用しました。そのようにしてまとめて７時間取るのではなく、分割しながらとったこともありました。

Ｑ．隈部先生に質問です。体育理論を年間指導計画に組み込む場合、どのように組み込み、どのような流れで授業をされていますか。

【隈部】
　体育理論の年間計画としては各学期に２時間ずつ行っています。

〇保健授業者の自評
熊本市立花陵中学校（竹元）
　本日はありがとうございました。今回の授業をするにあたり、一番悩んだ点は、アンケートにもあるように、医療機関は病気や怪我で利用したことがあるが、保健機関については利用したことがなく、まだ理解していない生徒が多いことでした。この開

きをどのように埋めるかを最も考え悩みました。今回の授業の目標に迫ることができていたのか、また、別の迫り方や、指導助言等頂けたらと思いますのでよろしくお願いします。最後に、この授業を行うにあたり、多くの先生方に支えていただいたこと、また生徒にも助けられたことにも感謝しながら自評に代えさせていただきます。ありがとうございました。

熊本市立花陵中学校（前田〈養護教諭〉）

本日はありがとうございました。私は年に２・３回、１年生の単元の性教育や睡眠と休養、けがの予防等の授業を担当しています。しかし、今回の授業内容は指導の経験がない上、私自身も実際に保健機関を活用する機会が少なく、相当勉強が必要だと思いがありました。自分自身たくさん勉強した分、その知識をどれくらい生徒に返していくか悩みました。自分の話す時間は５分程度でしたが７分程度にオーバーしてしまったのが反省点です。生涯にわたり健やかな心と体を育むということが大事だと思います。そして、今日学習したことを実際に活用できるかという点がねらいであるので、その力が生徒たちについたかどうかも含めて先生方から感想を頂けたらと思います。

Ｑ．開きを埋める手だてがたくさんあるとおっしゃっていましたが、インターネット等情報入手手段が多くある中で、市政だよりを用いた意図を教えてください。また、マトリックスシートを使われていましたが、生徒が実際に利用する際に良かった点や注意点等がありましたら教えてください。

【竹元】

市政だよりが各教室にあるのですが、生徒はほとんど読んでいないのが現状です。しかし一番生徒の身近なところにあり、学ぶ内容と関係があるのが市政だよりであったので用いました。インターネットでもよかったのですが、市政だよりは各家庭にも配布されていますので将来どの生徒も目にする機会があると思います。マトリックスシートは、１方向ではなく２方向で４つのゾーンを作り、話し合いをより広げたり深めたりできる方法だと考え、活用しました。また、付箋を貼ることによって視覚的にも気づきが生まれると考えました。個人だけではなくて集団や地域などにも幅広く使えるということに気付かせたいというねらいでこのシートを使わせていただきました。

【司会者】

実際の授業の中で、生徒たちの考えや意見が深まったり、変化したりするようすが見ることができ非常によかったと思いました。縦軸横軸のテーマは何にするのかという点なども先生方から聞けたらと思います。

Ｑ．生徒が活発に意見交換をし、積極的に取り組んでいると感じました。保健の授業をするなかで、生徒の反応が消極的なときなどがあるのですが、日ごろから行っている指導や手だて等がおありでしたら教えてください。

【竹元】
本日授業を行ったクラスは担任ではないクラスでした。あまり手が挙がらない場面もありました。机間巡視をしながらそのとき褒めることと、良い意見を書いている生徒を把握しておいて手が挙がらなかったときに当てることもあります。クラスのカラーなども関係しますが、今日は手を上げていない生徒にも当てました。

【司会者】
机間指導で褒められた生徒はおそらく自信を持つことができます。きめ細やかな声かけであったり、生徒が自信が持てるような手立てを自然とされていると思います。

Q．最初のアイスブレーキングも大変参考になりました。目標のところで機関を有効に利用するとありましたが、難しいところだと思います。実際どのようなところで機関を利用するのか、どのような判断をされるのかという点をお聞きしたいと思います。また、付箋の色を分けるとよかったのではと思ったのですが、意見を聞かせてください。最後に、次回医薬品の実験をされるということだったので、どのようなことをされるのか教えてください。

【竹元】
付箋の色を変えることについて、以前色を変えたことがあったのですが、色を気にして意見が出づらくなったり、何色にするかといった授業内容とずれた話が増え、時間がかかったりしました。今回はとにかくたくさん出させたかったので、色を変えませんでした。今回は少し意図があって付箋を２色用意していましたが、こちらから色々求めてしまうと活動が停滞してしまうのであまり言及をせず、進めました。

【前田】
薬剤師の先生に正しい薬の飲みかたなどいついて３年に一度、薬物乱用防止もふまえた講義を行ってもらいます。

【司会者】
体つくり運動と保健の両方でかまいませんので、その他質問したいことや共有したい情報などがあればお願いします。

Q．保健は必ず体育と関連づけるように求められますが、今回の授業でも入っている「健康の保持増進」という点を保健の授業でどのように扱われていくのか考えをお聞かせください。

【竹元】
運動との観点で関連づけるのは難しいので、病気や生活習慣病を予防するといった観点や総合的な視点で日頃の授業から話をしています。生涯、健康に暮らしていけるようにという点において授業の最後をまとめるようにしています。

Q．保健に関して、本日のグループ分けに意図はありましたか。また、どういった評価をされますか。体育に関して、各学校やクラスによって、状況や生徒の意欲も異なってくると思います。どのようなクラスで

体つくり運動の授業を行っても、生徒が意欲をもって取り組み、活発な授業になるとお考えですか。

【竹元】
保健のグループ分けについて、今日の授業では特に意図はありませんでした。普段の教室の並びと同じように座らせています。二点目の評価について、まずひとつ目が観察、もうひとつは学習シートを見て評価をしようと考えています。

【隈部】
「意欲をもって」という点ですが、まず、私が他の高校に行って同じような授業ができるかというと、できないと思います。それは学校によって生徒の状況やニーズが異なるからです。授業を作る上で大事な点は、合意形成やルールだと思います。そのため、各単元に入る際、必ずオリエンテーションを１時間かけて行います。授業に対する姿勢や態度に関する約束事を確認することが大事になると考えています。

【岩﨑】
私自身強引な性格でもあるので、どこの学校へ赴任しても自分のペースに持っていくことができるというのが正直なところです。生徒の質は学校によって様々だと思いますが、その学校の生徒に応じて教師側も合わせていかないといけないと思います。授業の中で、ルール・決まりを守ることやみんなと協力することなど、担当学年にかかわらず年間を通して話をしています。昨年は男子だけでダンスの授業を行いました。笑顔があふれ、様々なパフォーマンスも見せながら楽しくできたというのが現状です

【司会者】
３割の生徒が体育への苦手意識があるなかで、殆どの生徒が体つくり運動は楽しかったと返答しています。それだけ魅力のある領域であることを私たち教師が認識しなければならないと思いました。また、中学校で体つくり運動を行っていても、高校で忘れてしまっている生徒が多く残念なところですが、継続して行っていかなければと思います。保健については、様々な情報が錯綜する世の中で、子どもたち自身で的確に判断できる力を身につけさせていかなければならないと感じました。

〇指導助言
・久米野指導主事（中学校）
昨日より各地から研究発表大会に足を運んでいただきありがとうございました。中学校・高校の部は両日とも同学校で開催することができました。これも学校体育研究会の先生方のご尽力と、会場を提供していただいた熊本農業高等学校の先生方のお力添えの賜であると心より感謝しております。熊本市中体研では運動の楽しさをキーワードに、自発的な学習に至るまで４つの視点からテーマにせまる取り組みだったと思います。できる・わかる喜びや運動の楽しさから自主的な取り組み、日常化につなげるため、共同双方向型学習、そしてＩＴＣの活用、言語活動といった指導の工夫と、生徒たちの意欲を育むことに取り組まれ、その成果を本日の授業で見せていただいたと思います。生涯にわたって学習する基盤を培う上でも、主体的に取り組む態度の育成

が求められ、そのための手立てについて非常に整理・精選された内容で、熊本市の先生方のこれまでの積み重ねとチームワークのよさを感じました。保健の授業について、本日はチームティーチングということで、竹元先生と前田先生のＴＴの良さが光った授業だったと思います。二人の先生の問答があったり、一人が説明もう一人が板書をされていたり、非常に合理的だったと思います。ＴＴについては最近、外部ティーチャーの活用なども積極的に取り入れることが勧められているので、保健分野のみならず、体育や理論などの分野へ活用する視点を与えてもらったと思います。学習内容では、突然始まる導入で生徒をのせることができており大きなポイントであったと思います。導入の工夫やＩＣＴの活用によって生徒の学習内容の理解につながっており、スムーズでテンポの良い授業でした。課題の発見、知識の活用の場面がありましたが、工夫された問いかけやワークシートで生徒の思考を導き、言語活動を促すことがなされていたと思います。指導と評価の一体化が求められていますが、生徒の思考を深め広げる手立てとしても大変重要だったと思います。マトリックスシートを使う場面では、生徒は試行錯誤し、悩みながら作業をしておりました。そのことが最終的な目標に到達することにつながったと思います。市内では毎年、保健の研究授業を実施されるということですが、そのような機会はまだまだ全体的には多くはありません。したがって保健と体育を関連させて指導することが求められている中で、大変貴重な提案をいただいたと思います。体育に関して、体育館が改修工事中ということで空き教室を使ったり、小学校の体育館を借りたりと大変ご苦労があったのではと思います。日常生活で生かすことを目指しているなかで、身近ないすを用いることで取り組みやすいものになり、とても参考になるものでした。また、きめ細かい声かけや安全面についても何度も指示をしておられました。授業の計画と流れという点でもこと細かく考えてあり、岩﨑先生の意図がしっかりと組み込まれ、すばらしかったと思います。体ほぐし運動に鬼ごっこを使われましたが、生徒たちが楽しく交流するというねらいを達成していたと思います。体つくり運動の時数の課題が出ましたが、現在、指導要領には時数も明記されるようになりました。子どもの体力の低下傾向が続いていることと、運動習慣の二極化という課題の改善に向けて時数が明記されたと考えます。体ほぐしの運動については、運動経験が関係しない、簡単に楽しく取り組めるという特徴を生かして１単元として取り扱うだけではなく、他の領域とも関連させて指導することで、運動習慣の少ない生徒に運動の楽しさや運動の効果を実感させる機会を数多く与えていただくという趣旨もあると考えます。また、体育でも保健でも ICT の活用が非常に学習の効果を高めていたと思います。ねらいや場面を明確にし、計画的に活用していくことがポイントであり、他の先生方もひとつのアイテムとして活用していってほしいです。また、原則として男女共修です。領域の特性や生徒の実態、教師の数に応じて配慮が必要な場合もあると思います。しかし、男女共修で行うことができる工夫が必要だと思います。今、先生方が実践されていることは、確実に成果につながってい

ます。時期指導要領は改訂されますが、現行の指導要領を大筋引き継ぐかたちであると予想されます。今後とも現行の指導要領の趣旨をふまえて、引き続き授業内容の工夫、実践、必要に応じた改善などＰＤＣＡサイクルを意識して取り組んでもらえればと思います。改めて教師という仕事のすばらしさも感じることができました。

・寺本指導主事（高等学校）

緊張感の中、素晴らしい発表でした。昨日の研究発表から振り返り、北稜高校の渡邉先生に体つくり運動の授業の充実を目指してということで発表いただきました。きめ細やかで実態に応じた取り組みでした。また、生徒のニーズと体つくり運動の充実がマッチしていた研究授業でした。得意分野ではなく不安がある体つくり運動の研究に取り組まれた渡邉先生の教師としての使命感を感じました。中学３年生と高校１年生の接続についてもしっかり考えておられました。アンケート調査の結果で認識が薄いと出ていましたが、高校１年生において体つくり運動の意義をきちんと理解しているのかということ、また、行い方と効果を把握した上での授業展開が必要だと思います。「体ほぐしは、教師の頭ほぐし」と言われるように、それぞれの教師が専門性を生かして授業の充実を図るという、非常にやりがいのあるところ、教師の腕の見せどころである分野だと感じております。公開授業について、まず、集合した生徒の姿や様子からも規律がありました。生徒指導も含めて日頃の指導の徹底と、それを生徒が理解し、意欲をもって取り組んでいると思います。スーパーサーキットをされていましたが、個の能力に応じてそれぞれの活動内容が異なり、生徒自身が自分の課題や必要性を理解して取り組めていると感じました。体ほぐし運動でエリア鬼ごっこを行い、ステップアップする中でクリアしていく喜びや飽きないよう工夫をされていてすばらしかったと思います。山村先生において、師範の動きがすばやく、生徒を引きつける素晴らしい動きでした。運動量の確保はもちろん、５０分が短く感じる充実した授業だったと思います。「自己の体力や実生活に応じて日常的に継続して運動を行う計画を立てることができる」ということがこの体つくり運動の目標であり、小学校・中学校・高校と各学年を通して様々な種目を取り組んでほしいと思います。また、高等学校の部でも映像や音楽などICTを活用し、五感をフルに使う活動になるようお願いします。指導と評価の一体化、評価の難しさといった課題がありますが、バランスの良い評価を意識しなければなりません。授業を行うだけでは評価はできず、単元計画を行う中で評価の計画も組み込んでいくようにすることです。どのタイミングで、生徒のどのようなところを見て何を評価するのか、そしてそれを今後どのように活用していくのか、ということが非常に大事になると思います。「おおむねできる」というところで評価基準を作成されると思いますが、当然評価が低い生徒もでてきます。そのような、目標に届いていない生徒に対して必ず何かしらの手だてをすることと、自らの授業に改善の余地があることを自覚し、全ての生徒が「おおむねできる」段階まで引き上げる指導をめざしてほしいところです。生徒を育てるための評価として、工夫、改善を

継続してほしいと思います。文科省では態度の育成という点を強くいわれます。公正な態度、協力する態度、責任を果たす態度、参画する態度を育成しながら、スポーツに対する愛好的な態度を育ててほしいと思います。高校卒業後は、自分自身で運動する機会を見つけ、時間を作り、継続して行い、学校とは異なる場でスポーツライフを作っていかなければなりません。そのような資質や能力の育成と、ルールなどを工夫し場の中心となってスポーツをするような人材の育成までつなげていただきたいところです。そのため、学校教育のなかでスポーツに対する愛好的な態度を育ておくことが、生涯スポーツにつながると考えます。ヘルスプロモーションの中で、健康とは生きる目的ではなく、資源であるといわれます。子どもたちがこれから何事にも挑戦していくためには、健康という資源が必要不可欠であり、学校教育のなかでこの健康という資源を守り、大きくしていかなければなりません。そのためには授業の充実が一番です。授業から日常、日常から子どもたちの未来を支えていくというすばらしい職業であることを再確認し、各学校での授業充実につなげていってほしいと思います。学校体育研究会の山下会長をはじめ多くの先生方、また熊本農業高等学校をはじめとする体育の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。